

コミュニティを中心とした地域運営体制づくり に関する情報共有会を開催しました！

- コミュニティを中心とした地域運営体制づくりの推進に向けた機運の醸成を図るために、コミュニティ関係者を対象とした情報共有会を令和6年2月23日（金・祝）に東海市立市民活動センターで開催し、46名の参加がありました。
- 前半は、モデル地区である「加木屋・富木島ふれあい・渡内・緑陽」の各コミュニティの代表者が本年度の懇談会の内容や今後の取組の方向性について発表を行いました。
- 後半は、3～4名を1組にして、「みんなが参加したくなる！わくわく楽しいコミュニティ」をテーマに意見交換を行いました。

(1) モデル地区における取組紹介

コミュニティ名	主な取組結果
加木屋	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの協力団体として「スマイル加木屋」が発足 ・星城大学硬式野球部との交流 ・子どもが地域活動に参加するとポイントが貯まるカードの配布
富木島 ふれあい	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館まつり等で将来ビジョンPR用ブースの設置 ・つなぐノートを使って住民からアイデアや意見を収集
渡内	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会等の関係者との現状・課題の共有 ・子ども会休会などの状況を踏まえ、子どもを育む活動をコミュニティで支える仕組みの検討
緑陽	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の将来像「りょくよう未来スケッチ」の作成 ・小学生が懇談会に参加し、積極的に取組アイデアを提案



(2) グルーフトーク 「みんなが参加したくなる！わくわく楽しいコミュニティ」について



- コミュニティ自慢の楽しい活動や運営の工夫として、「親子を対象としたいちご狩り」、「気軽に話し合える井戸端会議」、「各種イベントに中学生ボランティアが参加する仕組みがあること」などの発表がありました。
- さらに楽しくするための工夫やアイデア、チャレンジとして、「得意なことを持った人を発掘（人材バンクの設置）」や「NPO等と連携したコミュニティ事業の企画・運営」などの意見がありました。

(3) 吉村教授によるまとめ「かたやぶり」と「わくはずし」

- 最後に、日本福祉大学の吉村教授から、本日の発表内容等を踏まえて、あいうえお作文を用いたユニークな講評をいただきました。
- 「かたやぶり」と「わくはずし」というメッセージには、前例踏襲ではなく、楽しくワクワクすること、やりたいから動き出すことの大切さや、チャレンジすることや試行錯誤すること等の大切なポイントが込められていました。

→過去へのきょうしゃくとはよくあたり前を
→楽しくおもろくなれるよとご
→やりたいから動き出す一人の自分、願いをがなえるみんなの
→無理にではなくていつもから予想された未来が
→理路整然でなく、大きいやせんか
→型破りと 枠はずし ←---

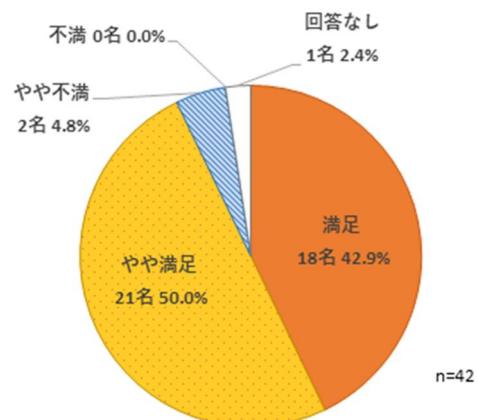
参加者アンケートのまとめ

Q1 情報共有会の満足度

- 回答者42人のうち42.9%（18人）が「満足」、50.0%（21人）が「やや満足」と答えており、9割以上の回答者が内容を評価しています。

■満足度の主な理由

- 他コミュニティの活動状況を共有できた（19件）
- 他のコミュニティの方と交流し、アイデアをもらえた（8件）
- 今後の活動の参考になった（7件）
- もっと色々な方の意見を聞きたい（3件）



Q2 情報共有会を通じて、とくに学んだこと、印象に残ったこと

- 他のコミュニティの活動内容を聞くことができた（8件）
- コミュニティごとの共通点や違いを知ることができた（8件）
- 幅広い世代や様々な人の意見を聞くことの大切さ（5件）
- コミュニティごとに様々なやり方があることを理解できた（5件）
- 吉村先生の講評のまとめの「かたやぶり」と「わくはずし」（4件）
- 子どもが参加することや、子どもの意見を聞くことの大切さ（4件）

Q3 情報共有会の内容や運営について、気になったこと、わかりにくかったこと、十分に発言しきれなかったこと

- 各コミュニティの発表を動画で紹介してほしい
- コミュニティと町内会・自治会の関係性が気になった
- 星空観察会には望遠鏡が必要になるが、どのように運営等したのか
- 12コミュニティの役員さんとの交流が少ないので、良い機会になった
- グループトークで同じコミュニティの方を別々にしたほうが、他のコミュニティの方と交流できる

Q4 今後の情報共有会についてご意見やご要望

- 今後も継続的に実施してほしい（4件）
- 他のコミュニティとの意見交換をもう少し長くしてほしい（4件）

Q5 今後のコミュニティの運営について

- 若者が参加できるとコミュニティが活発になると思う
- コミュニティの役員だけで問題解決をするのではなく、地域のみなさんと一緒に解決したい
- ボランティアなど積極的に参加できる体制をつくっていきたい
- コミュニティに常駐の相談員がほしい

※各回答の内容については、一部抜粋・加工をしています。